

新型コロナウイルス感染症発生下の医療体制及び検査体制の現状と課題

R 2 . 5 . 1 9

群馬県

1 医療体制

(1) 病床の確保状況

- ・ 医療機関と調整の上、170床（感染症病床52床、一般病床118床）を確保。
- ・ うち重症者に対応可能な病床は23床（うち超重症は7床）となっている。
- ・ 本県では接触を60%削減した場合のピーク時の患者数900人（群馬大学の流行シミュレーションによる）のうち重症、中等症者、高齢者等の患者数を勘案し、280床（うち重症者に対応可能な病床は50床）の確保を目標としている。
- ・ また、軽症者・無症状者向けの宿泊療養施設を150室確保。5月中に1,300室の確保を目標としている。

(2) 課題

- ・ 本県で発生した有料老人ホームにおけるクラスターでは、要介護度の高い患者を受け入れた医療機関で院内感染事案が発生した。医療機関が要介護度の高い高齢者の受入に消極的になっている。
- ・ また、救急患者、透析患者、妊婦、小児、精神疾患の患者のスムーズな受入に向けて、医療機関の役割分担の明確化が課題。
- ・ PPE等の医療資機材が不足（特にガウン、N95マスク等）している。
- ・ 重症化した患者に対応する体外式膜型人工肺、人工呼吸器を使用できる病床数の確保に加え、これらの機械を扱える医療従事者の確保が必要。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に多くの病床、医療従事者等の資源が投入される状態が長く続くことにより、医療従事者の疲弊、医療機関の減収額の増加、手術の先送りなどの他の疾患の診療への影響が懸念される。

2 検査体制

(1) 検査体制の現状

- ・ 帰国者・接触者外来は県内23か所、一日最大で約130検体を採取できる体制を確保。
- ・ また、地域外来・検査センターは県内2か所設置済み(5/16現在)。
- ・ 検査機関では、1日あたり衛生環境研究所において60検体、県内病院において10検体の検査が可能。
- ・ 現状では、必要な検査に対応できているが、今後の患者の大幅増、クラスター発生に向け、PCR検査体制のさらなる拡充が必要と考える。
- ・ 具体的には、地域外来・検査センターの増設のため、県内の郡市医師会、市町村に協力を要請している。また、県内医療機関において検査を実施できる体制を一層整えていくこととしている。

(2) 課題

- ・ 検査試薬、スワブ、个人防护具等の資機材が不足している、または入手に時間がかかるとの現場の声がある。
- ・ 帰国者・接触者外来は、感染症指定医療機関や地域の中核病院であることが多く、入院患者受け入れや救急医療の機能も担っていることから、検体採取に多くの人員を割くことは難しく、特に休日などの検査体制が弱くなっている。
- ・ 地域外来・検査センターにおいても、リスクの大きい検体採取業務にあたる医師、看護師等の人材確保が課題である。
- ・ 今後、鼻咽頭拭い液より採取が容易な唾液による検査や迅速診断キットによる抗原検査をどのように活用していくか検討していく。検討にあたり、診断キットがどの程度配分されるかが不明。
- ・ 経済・社会活動を再開するプロセスの中でPCR検査の需要が高まり、検査体制を拡充することにより、検査件数が増加することが見込まれるが、特に、呼吸器症状を呈するハイリスク者や濃厚接触者など、より積極的に検査すべき患者の検査が遅滞なく行われるような体制とする必要がある。